B 90　平面製図のための体型分類　―下半身用原型―

昭和女大家政　○清水　薫
県立新潟女短大　平沢　和子

目的　成人女子の平面製図による下半身用原型の設計上の基礎資料として腰部形態の類型的把握を試みた。類型化の基準として腰部の加齢による変化に対する寄与率を算出した。寄与率の高い示数は［(W.＋M.H)／H.］×100が52.6，［(W./H.)／((H.+100)－M.H)］×100が52.5［W./H.］×100が46.5であった。腹囲（中腰囲(M.H.)）を用いた示数と用いない示数間に大差が生じなかったことは、腹囲の増大は胴囲の増大と深くかかわると考えられた。そこで、一般に計測がゆきわたり利用度が高いと思われる［W./H.］×100の示数を用い、年齢を取りはらいグルーピングを行った。

方法　1. 被検者　成人女子524名（18～75歳）　2. a.マルチン式人体計測器による計測17項目　b.腰部横断面図より測定2項目　3. 実験期間①18～59歳（474名）1980～81年②65～75歳（50名）1983～84年　4. 524名を一括して［W./H.］×100を用いて$\bar{x}$±0.5σ（77.14～74.31～71.48）の範囲をMグループとし、W.のくびれの強弱により3グループ（Lグループ：ずん胴型，Sグループ：胴くびれ型）に分類し、グループ間で比較した。

結果　下半身用原型の脇線の設定並びにウエストダーツ量の算出のための体型情報として不可欠な①胴部前弧長②腰部後弧長③腹囲を基準項目である腰囲並びに胴囲から推定するために、グループ毎に相関係数を算出した。胴部前弧長と胴囲では、Lグループで.816、腰部後弧長と腰囲ではLグループで.810、腹囲と腰囲・胴囲とも又各グループとも.864～.745と高い相関を示している。このことからLグループの体型情報は少ない現状にあるが特にLグループでは上記3項目が精度高く推定が可能であろうと思われる。